地域おこし協力隊の3年間を振り返って

こんにちは！地域おこし協力隊の桑川（くめかわ）です。これまでは主に空き家・空き地バンクの業務に携わりながら、被災された人や移住希望者の人の住まい探しのお手伝いをして参りました。

時間が経つのは早いもので、9月末をもって３年間の任期を満了します。今までたくさんの人にお世話になり、本当にありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

今回は退任にあたって、私と南阿蘇村の関りを振り返ってみたいと思います。

南GO‼ Stationにて

栃木県出身の私ですが、初めて南阿蘇村に来たのは今から8年前、東海大学の農学部に入学した時でした。初めて見る阿蘇の風景は写真で見るよりも遥かに雄大で、感動したことを覚えています。学生時代は趣味の自転車に打ち込んだり、広大な農場で実習をしたり、南阿蘇だったからこそ得ることのできた経験が多かったです。今思い返しても最高の４年間を過ごすことが出来ました。

卒業後は関東で就職しましたが、就職1カ月頃には、楽しかった学生時代が恋しく、ホームシックならぬ“阿蘇シック”のような状態で、寝ても覚めても熊本や南阿蘇のことばかり思い出していました。その矢先に発生した熊本地震。当日はちょうど土曜日で、一日中テレビで生配信される青春を過ごした農学部の被災状況や、熊本県内の被災地の映像から目が離せませんでした。すぐにでもボランティアに駆け付けたい衝動にかられましたが、なかなか現地に赴くこともできず、何か自分にできることはないかと当時現役だった東海大学生と東京で募金活動をおこない、一日で百万円近くもの金額が集まる日もありました。当時の仕事を続けていくなかで、「いつかは南阿蘇村に戻り、直接復興の役に立ちたい。」そんな思いが大きくなっていき、そこで見つけたのが協力隊の募集でした。すぐに応募し、2017年10月に1年半ぶりに思い出の詰まった南阿蘇村に戻ることが出来ました。

移住希望者への空き屋バンクの説明

この仕事を通じて一番良かったことは“感謝してもらえたこと”です。空き家・空き地バンクで住まいを探すといっても、すぐに希望にあった物件が見つかる人は少なく、長い人で1年以上相談に来られてやっと住まいが決まる人もいらっしゃいました。ようやく物件が成約して感謝の言葉をかけていただいたことはやりがいを感じられる瞬間でした。

村は熊本地震後、人口流出が著しい状況でしたが、協力隊の仕事を通して微力ながら南阿蘇村を応援できた時間は、私にとって有意義で幸せな時間でした。退任まで残り僅かな時間ですが、悔いの残らないよう全力で頑張ります。9月末日まで役場横の南GO‼ Stationに勤務しておりますので、役場にお越しの際はぜひお立ち寄りください。お待ちしております。

南阿蘇村で貴重な体験が出来ました!!